



—東地中海地域ニュース—

中東和平：ロケット発射の可能性のある組織に関するイスラエルの見解
(3日付イスラエル各紙)

3日付イスラエル各紙の中には、2日に紅海周辺に着弾したロケットを発射した可能性のある組織をグローバル・ジハードであるとする見解と、ハマースであるとする見解の2つがある。現時点では、このロケット発射に関する犯行声明は出されていない。

1. グローバル・ジハードとする見解

- (1) アカバは、エイラート同様に当初からロケット攻撃の対象であり、同市への着弾は想定外ではない。
- (2) 2007年に約60名が犠牲となったアンマンの同時自爆事件のように、最近、グローバル・ジハードはイスラエルのみならず、ヨルダンやエジプトも攻撃対象としている。
- (3) エジプトはシナイ半島に治安部隊を配置しており、今回のようなロケット発射は不可能と主張するが、シナイ半島はグローバル・ジハードの温床であり、ガザへの武器密輸経路でもあるため、密輸されなかった武器が同半島に残されている。
- (4) グローバル・ジハード活動家はガザに入域し、訓練を積み、武装してシナイ半島に戻った後、エジプト国内の観光客を狙ったテロ活動を行っており、今回も同様のケースと見られる。

2. ハマースとする見解

- (1) これまでハマースとヒズボラは、経済的、心理的効果という点で、リゾート地であるエイラートはテロの格好の対象であると述べてきた。ヒズボラはエイラートを射程に含むスカッド・ミサイルを入手している。
- (2) 最近数ヵ月、ハマース軍事部門は、同政治部門の圧力により、ガザからの攻撃を控えてきたが、独自に代替攻撃を模索してきた。警備の手薄いシナイ半島に越境し、エイラートを狙ってロケットを発射することは容易な手法である。